

# 「膵島移植の最前線」

松本 慎一 先生

Shinichi Matsumoto, MD, PhD

大塚製薬工場特別顧問

国立国際医療研究センター膵島移植プロジェクト研究アドバイザー  
神戸大学医学研究科客員教授

Chief Scientific Advisor, Otsuka Pharmaceutical Factory, Inc.

Research Advisor, Pancreatic Islet Transplant Project, National Center for Global Health and Medicine.

Visiting Professor, Graduate School of Medicine, Kobe University.

**日時：令和5年 8月 18日（金） 14:30～15:30**

**場所：生体調節研究所1 階会議室**

（予約不要・直接会場にお越しください）

膵島移植は、血糖値が不安定な1型糖尿病患者に対して、血糖値を安定させ特に重症低血糖を予防する、膵島補充療法である。わが国では、同種膵島移植は2004年に1例目が実施され、2020年に保険適応になった。

同種膵島移植は、重症低血糖を伴う1型糖尿病の治療として確立してきたものの、ドナー不足と、一生涯にわたる免疫抑制剤の内服の必要性により、多くの患者への適応ができない。この二つの課題を解決すべく、医療用ブタの膵島を免疫隔離カプセルに包埋して、不安定型1型糖尿病患者へ移植する、膵島補充療法の臨床応用を海外で進めてきた。

膵島移植の課題を克服し、膵島補充療法がインスリン補充療法に代わる次世代治療として成立することを目指している。

1988年神戸大医学部卒、1997年米国ミネソタ大、1999年ワシントン大に留学。

2001年米国医師免許取得。2002年京都大学病院臓器移植医療部助手。

2004年日本初の心停止ドナーからの膵島移植に成功。

2005年世界初の生体膵島移植に成功。

2006年藤田保健衛生大医学部外科教授、米国ベイラーオールセインツ膵島移植研究所ディレクター。

2012年国立国際医療研究センター膵島移植プロジェクト研究アドバイザー。

松本先生は、2004年に日本初の心停止ドナーからの膵島移植、2005年に世界初の生体膵島移植を実施され、膵島移植の臨床及び研究で世界を牽引されてきた先生です。是非、皆様のご来聴をお願い申し上げます。

連絡先： 白川 純 生体調節研究所代謝疾患医科学分野（内線：8850）

E-mail: jshira@gunma-u.ac.jp (Jun Shirakawa)

発表言語：日本語（Japanese Only）